

教科・分野	週時間数	クラス	生徒数	担当者
美術・工芸	1	A～E	39	大月 康 範
目 標	美術を鑑賞することと表現することで、美の本質を考え、その豊かさと楽しさに触れることで、創造力を育み、個性を伸ばすことを目標とする。			
大切に育てたいもの	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造形的な創造活動の能力を伸ばすことを大切にしています。 2. 創造することの喜びを感じることを大切にしています。 3. 美術を愛好する心情を育んでいくことを大切にしています。 			

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期		油絵 「静物画を描く」	<ol style="list-style-type: none"> 1. 果物、野菜、ワインの瓶などを組み合わせたモチーフを3組準備する。 2. 画面への取り入れ方、モチーフの大きさ、余白とのバランスなど、ラフスケッチを数枚描いた後に構図をきめて下絵を描く。 3. 油絵の基礎技法を学び、表現の可能性を追求しながら描いていく。 4. 完成した作品を展示して互いに鑑賞する。
二学期		油絵 「自画像を描く」	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鏡を見ながら自分らしさが描けるような構図を見つける。 2. 自分らしさ、とくに眼に力のある自画像を意識しながら下絵を描く。 3. 油絵の基礎技法を学び、表現の可能性を追求しながら描いていく。 4. 完成した作品を展示して互いに鑑賞する。
三学期		陶芸 コーヒーカップをつくる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 陶芸について学習し、粘土を使った造形に興味と関心をもたせる。 2. 技法について理解し、自分のつくりたいかたちを数枚ラフスケッチをした後に決定する。 3. 粘土の性質を理解した上で、菊もみをしてから作業に入る。 4. 粘土板の上で、ひもづくりによるコーヒーカップをつくる。 5. なめし革でかたちを整えて高台をつくる。 6. 十分乾燥させてから焼成する。 7. 上薬をかけて本焼きして完成させる。 8. 完成作品を展示し、互いに鑑賞する。

価 の 方 法	授業で制作した作品評価	
学習活動の特徴	市販品ではなく、オリジナルに開発した教材を使用している。	
授業の形態	スライドを使った作品鑑賞と実習授業	
使用教科書	高校美術1 日本文教出版	
使用副教材		
用意するもの	美術セットほか	
備 考		